北海道新聞

2020年（令和2年）02月01日　（土曜日）　15

ドローンや赤外線センサー付きカメラなども活用

〝新世代〟ハンター育成へ

大樹の企業が教育プログラム　23日、1期生受け入れ

【大樹】名古屋市の情報システム会社・キャリオ技研（富田茂社長）が町晩成に設立した「ジュラテクノロジー」が2月から、ハンターを育成する教育プログラムを開始する。2018年に連携協定を締結した大樹と広尾、幕別の3町でわなの仕掛け方や食肉加工、流通を学ぶ。ドローン（小型無人機）など先端技術も活用する〝新世代〟のハンターを目指す。

（大能伸悟）

キャリオ技研は協定締結後、幕別町でドローンによるエゾシカ駆除の実証実験を実施、道内で事業展開を進めるため、18年11月にジュラテクノロジーを設立した。ドローンや「空飛ぶ車」の研究開発のほか、野生のシカ肉をハムに加工し、岐阜市内の専門店に出荷している。エゾシカによる食害が深刻化する一方、ハンターの高齢化が進んでいることから、次世代に技術を伝えることにした。

同社によると、講習は3クラスで、それぞれ2泊3日のプログラム。わなの仕掛け方やエゾシカの解体を実習するほか、解剖学や野生鳥獣の疾病、品質検査など食品流通までの技術習得を目指す。キャリオ技研のノウハウを生かし、ドローンや赤外線センサー付きのカメラも扱う。

講師はハンター、獣医などの資格がある社員が務める。大樹町森林組合（水谷隆司組合長）の協力の下、3町の山林で実技講習をする。受講料は1人当たり10万円ほどで、まずは2月23日に1期生を受け入れる予定。富田社長は「ハンターを新たな産業と位置付けたい。全国に受講生のネットワークができれば、情報交換もできる」と話した。

同社は今秋にも、大樹町多目的航空公園で空飛ぶ車の関連実験を開始する。

食肉加工したエゾシカの品質を確認する富田社長（左端）。ハンター育成に乗り出す＝2018年２月５日